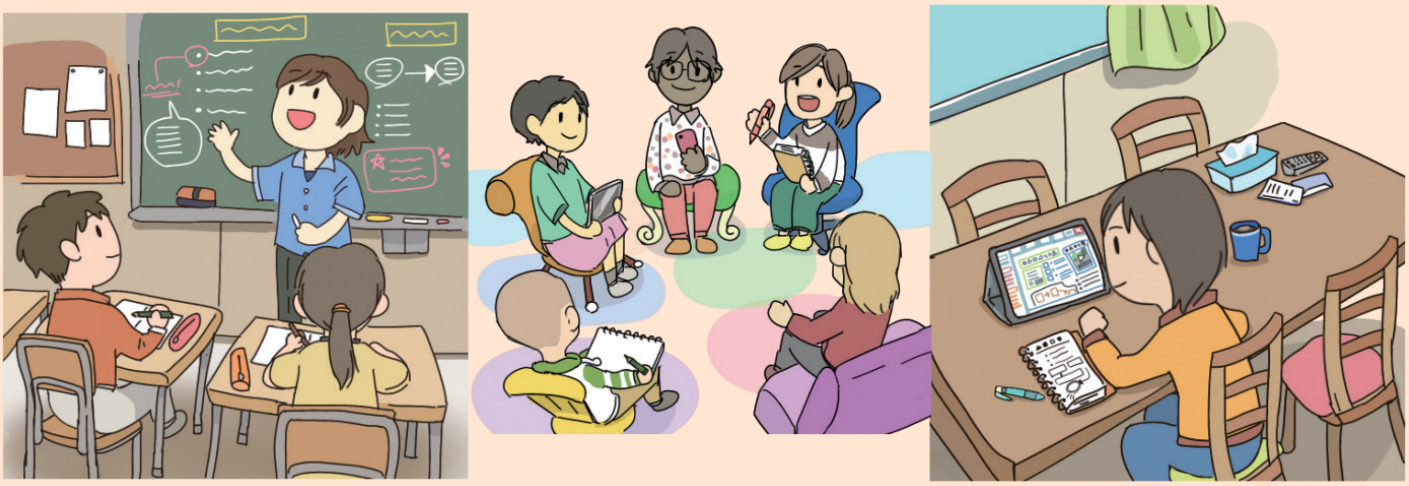
Ms. スクエア SQUARE

きよせ女性広報

2023.10 103



特集

不登校と多様な学びを考える

清瀬市男女共同参画センター（アイレック）

特集 不登校と多様な学びを考える

不登校は「子どもに問題がある」「母親の育て方が悪い」という心ない声が多くあるのが現状です。そして「とにかく登校させることが第一」と考えられてきました。
2016年に『教育機会確保法』※が制定され、学校の環境整備だけでなく学校以外の多様な学びの確保や支援も行われるようになりました。しかし、その内容はあまり知られていません。
そのため、学校に行かない子どもたちに適切な支援が届かず、母親への負担も大きい状況が続いています。身近な体験談を通して、これからの学びの在り方について考えてみませんか。

※『義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律』

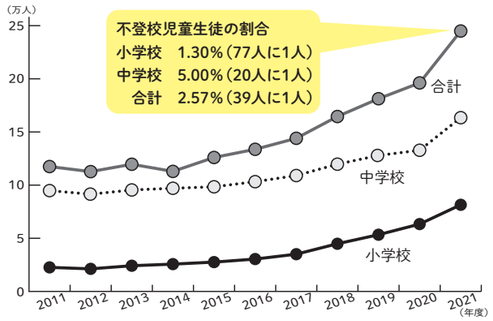
事例１　付き添い登校をしたＡさん 高校１年生の子を持つ母親

娘が中学１年生の秋ごろから朝起きると腹痛や頭痛・吐き気を訴えるようになりました。コロナ禍で入学式も６月まで延長され、新しい生活に慣れようと奮闘した結果、心に限界が来ていたのだと思います。当初は、夫と２人で責めるような言葉を浴びせたこともありました。体調面では起立性調節障害と診断を受けたり、心の面ではスクールカウンセラーや保健室の先生、清瀬市子どもの発達支援・交流センター【とことこ】の先生から支援を受けたりしました。

遅刻して登校する時は、私が学校まで付き添いましたが、仕事のやりくりが大変でした。高校は、マイペースな娘の性格に合った定時制の学校に進学しました。今はインターネットを使った高校もある時代です。自分に合った環境を選んで学ぶことも大切だと思います。

＜不登校児童生徒数の推移＞

不登校児童生徒数は、過去最多を更新し続けています。2012年から９年連続で増え続け、2021年には24万人を超えました。



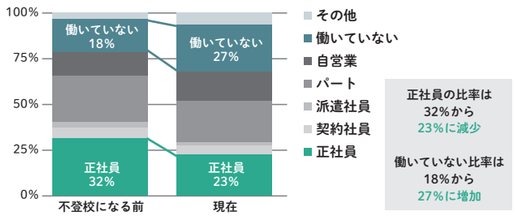
文部科学省　令和３年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について

事例２　職場の理解を得て仕事を続けたＢさん 高校１年生の子を持つ母親

当時、小学６年生だった娘が登校を渋り始めたのは、私がパートの仕事に慣れ始めた矢先のことでした。朝、登校しないことにいらだちをぶつけたこともあります。夫からは仕事を辞めて、娘のサポートに専念したほうがいいと言われましたが、職場に娘の状態を正直に話したところ、理解が得られ、シフトも考慮してもらえました。今、思えば仕事を続けてよかったと思います。あのまま、娘と真正面から向き合う日々が続いていたら、煮詰まっていたと思います。職場に向かうことで気持ちを切り替えたり冷静になれたりしました。不登校の子どものサポートと仕事の両立は、家族や職場など周りの理解がなくては成り立ちません。

＜子どもの主なケアを担っている保護者についての調査＞

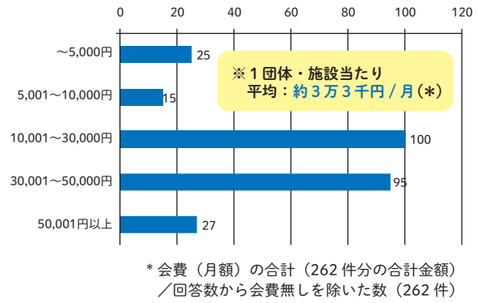
子どもが不登校になる前と後では、保護者の就労形態は正社員の比率は減少し、就労していない保護者は増加しています※1。別の調査で不登校をきっかけに３割の家庭で世帯収入が減っているという結果もあります※2。



※1　2022年、NPO法人カタリバによる不登校の子どもを持つ保護者405人への収入・就労・家計調査結果　※2　NPO法人「登校拒否・不登校を考える全国ネットワーク」による不登校の子どもを持つ保護者640人へのアンケート調査結果

＜フリースクールの会費等の状況＞

８年前の調査ですが、年間で1人あたり約40万円かかっています。



＊会費（月額）の合計（262 件分の合計金額）／回答数から会費無しを除いた数（262 件）

2015年　文部科学省 小・中学校に通っていない義務教育段階の子供が通う民間の団体・施設に関する調査

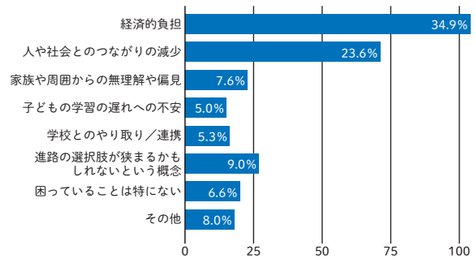
事例３　フリースクール※利用のＣさん 小学６年生の子を持つ母親

息子は、小学３年生の時に不登校になりました。当初は情報のなさと疎外感がつらく、ありとあらゆるところに相談に行きました。現在は週に３日、市内の民間フリースクールに通っています。フリースクール代は月４～５万円で、それを支払う（＋自分自身の心身の健康を保つ）ために働きに出ています。どんな子どもも経済的負担なく自分に合った教育を選べる社会になってほしいです。不登校はマイノリティ。それがゆえに苦しむことが多く、自信をなくしがちです。しかし、不登校のおかげで私は息子をひとりの人間として見られるようになりました。不登校で悩んでいる方に伝えたいのは「お子さんは何も悪くない！」ということです。お互いがお互いを尊重し合える世の中になりますように……。

※ 不登校児童・生徒に学習・教育相談・活動体験等を行なう民間の施設

＜ホームスクール・ホームエデュケーションに関する保護者の困りごと＞

第1位は『経済的負担』です。オンライン講座や通信教材費・交通費等、教育関連費が増えたためと考えられます。



2022年度ホームスクール＆ホームエデュケーション家庭全国アンケート
出典：「ホームスクール＆ホームエデュケーション家族会」ホームページ

事例４　ホームエデュケーション※を選択したＤさん 小学５年生の子を持つ母親

娘は小学４年生からホームエデュケーションを選択しています。娘は「学校が息苦しい」と感じていました。家族で話し合った結果、オンライン教材等を利用しながら自宅で自分のペースで過ごすことにしました。現在は市内の居場所も積極的に利用しています。一番つらいのは、周囲の無理解や学校に行かないことを「単なるワガママ」と批判されたり、「義務教育違反では」と責められたりすることです。今、学校がつらいと思っている子には「無理して行かなくて大丈夫」と伝えたいです。子どもたちが、毎日を楽しく自分らしく過ごせる社会にしていくことは私たち大人の責任だと思います。

※家庭を拠点とした学びのこと。「ホームスクーリング」とも言う

清瀬における不登校の子どもの居場所

市内初の校内の居場所「ステップルーム」

清瀬市の中学校で初めて不登校の子どもの居場所「ステップルーム」を開設した、清瀬市立清瀬第三中学校を取材し、担当の西千晴先生、副校長の松谷静香先生にお話を伺いました。

教室に入ることが難しい生徒が複数名おり、保護者の要望で2020年にステップルームはスタートしました。当初より週５日、午前・午後を通して利用可能としました。現在は９人の生徒が利用しています。

登校時間は生徒の希望や状況に合わせていますが、半分以上の生徒が、始業から６時間目まで滞在しています。ステップルームでの過ごし方は、オンライン授業の視聴やワークを使って自習をしたり、体を動かす目的で卓球をしたりなど、それぞれです。給食はステップルームで食べて、放課後には部活動に参加する生徒もいます。市の支援員・学生ボランティアのほか、本人と信頼関係を築いている身近な教職員などの協力により、個々の生徒に適切な支援ができるよう配慮しています。生徒の希望があれば、担任と連携し、運動会や修学旅行などの学校行事等にも参加しています。進路についても個別のサポートを行っており、面接や作文の対策をして希望の進路をかなえた生徒もいました。

取材に答えてくださる、西先生。

旧音楽室を利用した、ステップルーム。一人二台の机を使用している。

『目標は、まずここに来ること』だと思っています。通常の学級に戻ることを目指すのではなく『家を出て人と交流する』ということを大切にしています。

※清瀬市立小中学校では、清瀬第三中学校以外でもニーズに応じて校内に不登校の子どもの場を作る試みが始まっています。場所は図書室、保健室など、運用も学校によって異なります。

不登校の相談窓口・教育支援センター

清瀬市では、お子さんについての相談窓口や教育支援センターがあります。

清瀬市 子ども家庭支援センター	18歳未満の子どもとその家庭に関するあらゆる相談を受け付けています。子ども自身からの相談も受け付けています。	住所：中里5-842 しあわせ未来センター２階 電話：042-495-7701
清瀬市教育相談室	清瀬市在住の０～18歳までのお子さんとそのご家族の相談を受け付けています。心理を専門とする相談員がいます。	しあわせ未来センター２階 電話：042-493-4122
清瀬市教育委員会 スクールソーシャル ワーカー〔SSW〕	清瀬市内の公立小・中学校の児童・生徒やその保護者の相談を受け付けています。学校や友達のこと、勉強のこと、家庭でのことで、困っていることや心配なことなどについての相談ができます。	清瀬市役所２階 教育指導課 電話：042-497-2552
スクールカウンセラー （市立小中学校）	児童・生徒及び保護者の困りごとや心配ごとについて相談を受け付けています。相談日は週1回（曜日は学校ごとに違います）	スクールカウンセラーに直接申し込むか、各校の副校長や担任、養護教諭に申し込む。
清瀬市教育支援センター フレンドルーム	学習活動（各教科）・集団活動（遠足・調理実習など）の場を提供し個に応じた支援をしている。	しあわせ未来センター２階 電話：042-493-0690

不登校の子どもの居場所の例

NPO法人　清瀬こども劇場 住所：松山2-19-6 電話：0424-93-7970	子どもが心豊かに育つ地域づくりのために芸術文化体験活動を展開。不登校のこどもの居場所活動(愛称レモンソーダ)及び不登校のこどもの親の学び合いの場(愛称さくらんぼの会)をそれぞれ月2回実施。
NPO法人　ウイズアイ 子どもの居場所　ゆいゆい 住所：梅園2-2-29 電話：070-3827-8612	不登校の子どもたちが安心して過ごせる「ここにいていいんだよ」という居場所を目指している。スタッフは子どもたちとコミュニケーションを図りながら、一緒に過ごして見守る。さらに、不登校児の親の会をゆいゆいの家にて、毎月実施。

※上にご紹介したものは市内の居場所をすべて網羅したものではありません。
また、市が特定の NPO 法人主催の居場所を推奨していることはありません。

不登校のその後

不登校を経ても、多方面で活躍している方も大勢います。

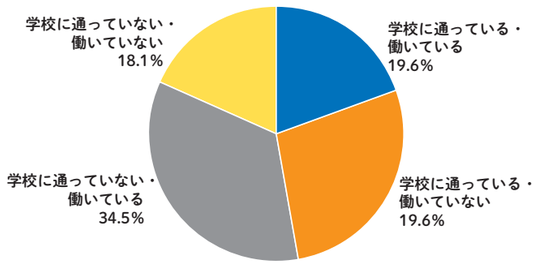
事例５　不登校、ひきこもりを経た50代の男性Ｃさん

小さい頃から周りと同じことが同じ速さでできず、集団になじめませんでした。不登校経験は高校の時に３週間だけですが、本当に我慢をして学校に通いました。

2002年に会社を辞め、家にひきこもりましたが外出などはできました。新聞で「発達障害」の記事を見て、自分も診断を受けたいと思いましたが、決心がつきませんでした。2016年ごろに発達障害の人が集まるカフェを知り、さまざまな人と知り合い、一緒に家族会・当事者会を立ち上げることができました。今は、会のスタッフとしてイベント活動をしています。

＜不登校生徒に関する追跡調査＞

不登校が長期化すると、「ひきこもり」になるのではないかと心配になるかもしれません。少し古いデータですが、2014年の文科省の調査によれば、中学３年生の時点で不登校だった人で20歳時に就学も就労もしていない人は２割以下です。これは、教育機会確保法が定められる前の調査のデータですので、不登校に対する理解が広がり様々な対策がとられることにより変化すると考えられます。



2014年文部科学省
不登校に関する実態調査平成18年度不登校生徒に関する追跡調査報告書

本の紹介

『私のココロは私のもの ～不登校って言わないで～』

プルスアルハ著　ゆまに書房

周囲に合わせることに疲れ、学校に行けなくなったミク。そんなミクの内面の葛藤が等身大で描かれています。ミクと家族の物語を通して「あなたはあなたのままでいい」「あなたのペースで大丈夫」という温かいメッセージが伝わってきます。子どもに関わる全ての方に手に取っていただきたい絵本です。

『子どもの学ぶ権利と多様な学び 誰もが安心して学べる社会へ』

喜多明人編著　エイデル研究所

子どもの不登校が増え続けています。学校復帰ではなく社会的自立を目的として制定された「教育機会確保法」を踏まえ、学校改革を「学校外の多様な学びの場」（オルタナティブ教育）まで広げた教育改革研究の成果と、子どもの学ぶ権利の視点から、誰もが安心して学べる社会の実現のための今後の展望を提言しています。

『個人的なことは社会的なこと』

貴戸理恵著　青土社

著者自身も不登校を経験し、「不登校になっても不利益を被らない環境」がなぜ大切なのかが語られています。また、フリースクールの視点から教育機会確保法にも触れられています。この一冊で不登校はもちろん、様々な社会問題の著者の８年間の思考の記録です。

『不登校・ひきこもり・発達障害・LGBTQ+ 生きづらさの生き方ガイド』

大橋史信・岡本二美代共著　日本法令

さまざまな生きづらさを抱えた当事者・経験者・家族へのインタビュー、困ったときの相談先、仲間とつながりたいときの居場所、就労したいときの支援先などがたくさん紹介されています。見たいところがすぐみられる「早見ガイド」もあり、とても便利です。

『NPOカタリバがみんなと作った不登校 ー親子のための教科書』

今村久美著　ダイヤモンド社

不登校において信頼のおける情報や支援機関はいまだ足りていません。そんな中、不登校に悩む親子のためのガイドブックができました。「まず何をしたらいいの？」「進学は？」「学校以外に学べる場所は？」具体的な悩みにリアルに答えてくれる一冊です。

令和５年度男女共同参画週間記念講座

講師：自由の森学園高等学校校長　菅間正道先生

令和５年度男女共同参画週間を記念して７月２日に菅間正道さんの講演会が行われました。熱意あふれるお話に約50名の方が熱心に耳を傾け、活気ある講演会となりました。

自己・他者・世界への基本的信頼をどうつくるか

―学び合い、育ち合いをすすめる一助として

学校で子どもたちは、テストをはじめ様々なことを数値化され、競争を強いられています。また、ブラック校則に象徴される管理主義で追い込まれ、学校だけでなく家庭でも配慮をして空気を読まざるを得ないような、厳しい環境にあります。

2020年ユニセフの調査によると「子どもの幸福度」で日本は先進38ヵ国中ワースト２位でした。子どもたちが安心して自由に幸せに生きるために、この閉塞状況を打開するための方策を、社会全体で考えるべきだと思っています。その『きも』となるのが「基本的信頼」※を育むことです。

※アメリカの心理学者エリクソンの提唱した概念。社会や他者に対する筋の通った信頼 、 自分の存在を肯定的に捉え、人生には生きる意味や生存する価値があり、世界は信頼するに足るものだという感覚。

そのためには、まずは子どもたちの声を聴くことが大事です。自分の声と存在を受け止めてくれる他者がいてこそ安心して声を発することができます。他者と意見を交換しあう中で互いの違いに気付き、尊重し合い、多様性を受容することで、自己も形成されていきます。ともに学び合い、支え合うことが「基本的信頼」を育む第一歩になります。

自分の人生航路の舵をしっかり握り、学ぶことや社会と関わることで得た羅針盤を片手に思うままに生きる、時にはひとりで、時には大きな船団を組み、目指すべき世界に向けて航海を続ける・・・・・そんな子どもたちの育ちを目指していきましょう。

第28回アイレックまつり 10月7日（土）～8日（日）

8日 14：00～：講演会
「平和とジェンダー」～家族・人権・個人をどう考えるか～
講師：田中優子さん

7日 14：00～：講演会
「古典落語の女たち」～今を生きる林家つる子の挑戦～
講師：林家つる子さん

7日 17：30～/8日 10：30～
映画上映　「未来を花束にして」

★バザー、パネル展示もあります

詳細はこちら

アイレックから

Ms.スクエア編集委員募集！

Ms.スクエアは公募による市民の編集委員が企画編集して発行している広報誌です。男女共同参画に興味がある・文章を書くのが好き・イラストが得意・広報誌を作ってみたい、という皆さまの応募をお待ちしております。

応募条件　18歳以上の女性で文章講座の受講者（受講できない方は応相談）
任　　期　令和６年４月～令和８年３月
申 込 み　12月１日（金）までに「私がMs.スクエアで実現したいこと」

を800字程度にまとめ、住所・氏名・年齢・職業・電話番号を記入し、男女共同参画センターへ郵送・FAX・または直接ご持参ください。

プロから学ぶ文章講座

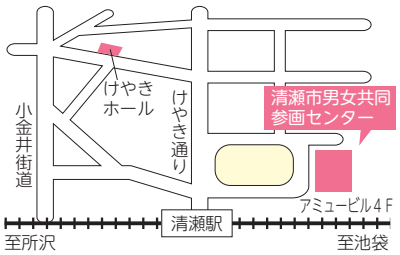
日　時　①10月25日（水）
②11月８日（水）
③11月22日（水）
いずれも午前10時～正午
※３回連続の講座です。
場　所　男女共同参画センター
講　師　大橋由香子さん（フリーライター・編集者）
申込み　10月３日から
右記QRコード
または電話にて受付

「きよせ女性広報」という誌名について、ご意見募集!

Ms.スクエア創刊当時には、〝女性編集者による女性のための広報〟という意味がありました。しかし創刊32年目を迎え、現在は〝男女共同参画を推進するための広報〟という役割に変わりつつあります。誌名に対する皆様のお考えをお寄せください。あわせて今号へのご感想もお待ちしています。右記QRコードから入力ください。

次号104号の発行は令和6年4月1日です。

発　　行／清瀬市男女共同参画センター
発 行 日／令和５年10月1日
企画・編集／清瀬市男女共同参画センター
〒204-0021 清瀬市元町1-2-11
アミュービル4階
☎ 042-495-7002
FAX 042-495-7008
表紙イラスト／こうたろう



アイレック（ILEC）とは、
Information（情報）
Learning（学習）
Exchange（交流）
Consultation（相談）
の頭文字をとった清瀬市男女共同参画センターの愛称です。

アイレック Facebook

アイレック Instagram

編集後記

奥澤

不登校の問題を通して、子どもの権利がいかに蔑ろにされているかを思い知らされました。子どもの権利を守るために私たちにできることは、一人ひとりが思考停止せず、対話し、学び続けることではないでしょうか。

佐藤

今号では、たくさんの本を読み勉強をしました。その多くは、誌面の関係上、記事にすることができませんでしたが、これからの活動に役立つものと考えています。

髙橋

三中の取材で「まずここに来ること」とおっしゃった先生の言葉に感銘を受けました。不登校に関係なく、子どもも家族も孤立させない、ひきこもりでも一人にしない。子どももいない私ですが、まずはこの意識を持ち続けたいと思います。

中川

不登校への偏見は薄れつつあっても否定的なまなざしは根強く残っています。今回の号が「教育機会確保法」によって、子ども一人ひとりに合った学びの場が保障されていること、そして学びには多様な選択肢があることを知ってもらえるきっかけになれば嬉しいです。

湯浅

毎号新しい気づきがあるのは編集委員をして良かったと思えるところです。今回、不登校に関しての私の理解は大幅にアップグレードされました。近い将来、学校に行くか・行かないかで線引きするのではなく、子ども自身が受けたい教育を選択ができるようになってほしいと思いました。

似顔絵イラスト／湯浅